

資源評価調査委託事業
漁獲情報収集調査

和田由香・竹谷裕平・三浦太智・山中智之・長崎勝康¹

目 的

日本の周辺海域で利用可能な魚種の適切な利用と保護を図るため、科学的客観的根拠に基づいて資源評価を行うために必要な関係資料を整備する。

調査内容及び調査手法

1. 漁獲量収集調査

対象機関：県内 42 漁協及び八戸魚市場

対象魚種：(太平洋)マイワシ、カタクチイワシ、スケトウダラ、マダラ、イトヒキダラ、キアンコウ、キチジ、マアジ、マサバ、ゴマサバ、ヒラメ、ヤナギムシガレイ、サメガレイ、スルメイカ、ズワイガニの計 15 魚種

(日本海)マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、ニギス、スケトウダラ、マダラ、マアジ、ブリ、マダイ、ホッケ、ハタハタ、マサバ、ヒラメ、マガレイ、ムシガレイ、アカガレイ、ソウハチ、スルメイカ、ヤリイカ、ベニズワイガニ、ホッコクアカエビの計 21 魚種

調査概要：調査対象機関から上記対象種の月別・漁業種類別・銘柄別の漁獲量の情報を収集し、我が国周辺資源調査情報システム（通称 FRESCO）を介して、(独)水産総合研究センターに提供した。

2. 生物測定調査

対象機関：新深浦町漁協、鱈ヶ沢漁協、外ヶ浜漁協、八戸みなと漁協及び八戸魚市場

対象魚種：マイワシ、カタクチイワシ、マダラ、マアジ、ブリ、ハタハタ、マサバ、ゴマサバ、ヒラメ、マガレイ、スルメイカの計 11 魚種

調査概要：水産重要種の基礎的な生物情報の蓄積を目的として、漁獲物をサンプルとして買上げ、マイワシ、カタクチイワシ、ブリ、ハタハタ、マサバ、ゴマサバ、ヒラメ、マガレイ、スルメイカについては体長、体重、生殖腺重量の測定、性別の識別、年齢形質の採取を行った。また、マアジ、マダラについては、体長を測定した。

結 果

各調査結果を(独)水産総合研究センターへ報告した。(独)水産総合研究センターは各都道府県からのデータを基に資源評価を行い、結果を「平成 26 年度我が国周辺水域の漁業資源評価」として発表している。

また、得られた情報を基に、本事業の対象種のうち青森県内の沿岸漁業において重要な漁獲対象種で比較的地域固有性の強い魚種であるヒラメ、ムシガレイ、マガレイ、マダラ、マダイ、ハタハタ、ウスメバル、キアンコウ、ヤリイカの資源状態の評価を行った。漁獲量の水準が高位であった魚種は津軽海峡及び陸奥湾のヒラメ、日本海のマダイ、低位であった魚種はヤリイカ、日本海のウスメバル及びマガレイであり、漁獲量が減少傾向にある魚種はキアンコウ、日本海のウスメバル及びマガレイであった。

¹地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所

発表 HP:平成 26 年度我が国周辺水域の漁業資源評価。水産庁・水産総合研究センター,平成 27 年 3 月